Association Japonaise de la Press Sportive

Vol.00

HEARTBEAT OF SPORTS

# スポーツの鼓動

## 10人のスーパースター

Super Star

Canon
make it possible with canon

# 極限のドラマを記録する。

世界記録、大会記録。
人類の限界が更新される瞬間を
いつも最前線で見つめてきたのが、
プロフォトグラファーとキヤノンの「1」だった。
描写力、高速性、信頼性、そして操作性。
すべてにおいて最も優れた機材だけが選ばれ、
踏み込むことを許される舞台で、
新しい「1」も彼らの眼となり、
歴史が変わる瞬間を世界へ伝える。

## EOS-1D X Mark II、誕生。

# EOS-1D X Mark II

●有効約2020万画素35mmフルサイズCMOSセンサー ●常用ISO 51200、H3:409600相当の高感度 ●高速・高画質処理を可能にする、デュアルDIGIC 6+ ●新開発の約36万画素RGB+IR測光センサー ●AF/AE追従で約14コマ/秒※、最高約16コマ/秒※の高速連続撮影 ●全点F8対応、新61点レティクルAF ●GPS機能、有線LAN機能内蔵 ●DCI 4K/60P、フルHD/120Pハイフレーム動画撮影 ●すべてのEFレンズでデュアルピクセルCMOS AFが可能 ※バッテリーパックLP-E19使用時。※条件によって最高連続撮影速度が低下します。

30th ANNIVERSARY EOS SYSTEM　80 million EOS　110 million EF

EOSは2015年11月10日に累計生産台数8,000万台、EFレンズは2015年6月22日に累計生産本数1億1,000万本を達成しました。

TOP PARTNER

EOSホームページ
canon.jp/eos

キヤノンお客様相談センター/デジタルカメラ 050-555-90002

［受付時間］平日・土・日・祝日 9:00～18:00（1/1～3は休ませていただきます。）※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

HEARTBEAT OF SPORTS

# スポーツの鼓動

## 時間と数字と接触と。40分間の鼓動

文／小笠原陽子

バスケットボールは『時間と数字』と格闘するスポーツだ。
常に残秒が表示されるなかで、
3秒、5秒、8秒、14秒、24秒ルールがひたひたと迫り、
1点、2点、3点の得点パターンの妙が接戦を生む。
残り1秒まで勝っていても、
終了の合図とともに〝ブザービーター〟が決まれば、
試合は一瞬にして、歓喜にも、無残にも、ひっくり返る。
あと1点に泣き、あと1点に笑う。
あと1秒に挑み、あと1秒に沈む。
刻一刻と迫りくる時間の中で、一瞬一瞬の判断が重要なだけに
幾多もある攻め手、守り手のなかで、
コート上で止まっている者などひとりもいない。
その一方、1点をもぎ取るフリースローでは、
ひとりだけの静寂な空間が待っている。

時間と戦い、数字と戦い、頭脳戦、体力戦、
そして、人と人との接触戦と個の空間。
静と動のアップダウンが激しく、数字のルールが無数にあるため
「バスケを観るのは難しい」――そんな声も聞く。
ならば、これだけ心して見ればよい。
どんなに、乱打戦になっても、どんなに守備合戦になっても、
40分が経過したときに、1点でも勝っていればいい。
誰もが魅了される〝シュート〟がガンガン入るスポーツ。
それがバスケットボール。
難しいルールはいらない。迫りくる残秒、
静と動が行き来するスリル満点の鼓動を味わえばいいだけだ。

©Yoshio Kato

# スポーツの鼓動
HEARTBEAT OF SPORTS

## vol.00

Cover Photo : NAOYOSHI SUEISHI


04 Column　時間と数字と接触と。40分間の鼓動

08 **10人のスーパースター**

**クリスティアーノ・ロナウド**　憎まれっ子世にはばかる
**羽生結弦**　表現力に長けた唯一無二の存在
**松山英樹**　メジャー制覇を目指す
**内村航平**　王者が挑む新境地
**伊調　馨**　理想を追究する天才レスラー

20 AJPS会員が語る10の個性　Part1

**萩野公介**　プロスイマーという厳しい道を選択
**イチロー**　記録にも記憶にも残る才能
**ウサイン・ボルト**　強さとチャーミングを兼ね備えた絶対王者
**錦織　圭**　ビッグ4の壁を超えろ
**高梨沙羅**　W杯53勝でもぬぐえない不安

32 AJPS会員が語る10の個性　Part2

34 **もう一つのスポーツギア**

38 体験隊が行く！　アウトリガーカヌー編

40 **10人のスーパースター＋2**
**次世代の若き鼓動**

**平野美宇**　嫌われる勇気を持つ16歳
**石川祐希**　日本待望のスパイカー

44 取材珍道中記

©Naoyoshi Sueishi


SanDisk®

SSDでも「さすがサンディスク」と
言わせてみせる。

HDDの最大9倍*3のスピード、世界最速SSD*4が
撮影後のデータ処理を劇的に効率化。

・大容量の動画や写真、画像のバックアップに最適
・衝撃に強い半導体コアにゴム製クッションと丈夫なアルミ素材を組み合わせた高耐久性モデル
・使いやすい暗号化ソフトウェアで機密情報を保護 +2
・USB Type-C™とUSB Type-A™ケーブル付属で汎用性を確保
・信頼の3年間保証

超高速性能*1　3年間限定保証*1
最大読取り速度 850MB/秒　最大書込み速度 850MB/秒
USB3.1 Gen2
1.92 TB**

サンディスク エクストリーム 900
ポータブル ソリッド ステート ドライブ

サンディスクはプロカメラマンの83.8%*から「安心のブランド」と評価されました。　Facebookでサンディスクの最新情報をチェック!　@SanDiskJP　サンディスク　検索

サンディスクは2016年「メモリーカード」及び2016年「SSD」でシェアNo.1ブランド**です。

*2015年12月当社調べ（複数回答あり）。詳細は当社Webにてご確認いただけます。http://www.sandisk.co.jp/leader2015/　**全国有力家電量販店の販売実績を集計/GfK Japan調べ（■メモリーカード：2016年メモリーカード、メーカー別数量・金額シェア ■ソリッドステートドライブ：2016年「HDDよりストレージ種類「SSD」を抽出」、メーカー別数量・金額シェア）●SanDisk及びSanDiskのロゴは、米国及びその他の国におけるWestern Digital Corporationまたはその関連会社の商標です。その他の商標も特定の目的のためのみに使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。＊1 この数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ご使用のホスト機器によって読取り／書込み速度は異なる場合があります。CrystalDiskMark デフォルト設定。1メガバイト（MB）＝100万バイト。＊2 1テラバイト（TB）＝10兆バイト。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の

# 10人のスーパースター

## Super Star

スターとそれ以外の選手との間に、
明確な線が存在するのがスポーツ界。
一流の成績、結果を残さなければ、
スターの領域には入れない。
基準は厳格。世界レベルだ。
世界のトップに位置するか否か。
人気者か否かは関係ない。悪役も可。
芸能人やタレントと同じ土俵で語るべきではない
現世の偉人。
まさに本物度100%と言いたくなる
トップアスリートは、
その定義が曖昧な俗世界において、
輝きに溢れている。
その競技、ひいてはスポーツ全体の
普及発展に寄与する救世主でもある。
東京五輪を3年後に控えたいま、
その真髄について、再確認しておきたくなる。
スター選手は日本を救う。地球を救う。
スター選手に感謝。世の中が不安定化するほど、
その存在意義は高まっていく。





©Yusuke Nakanishi

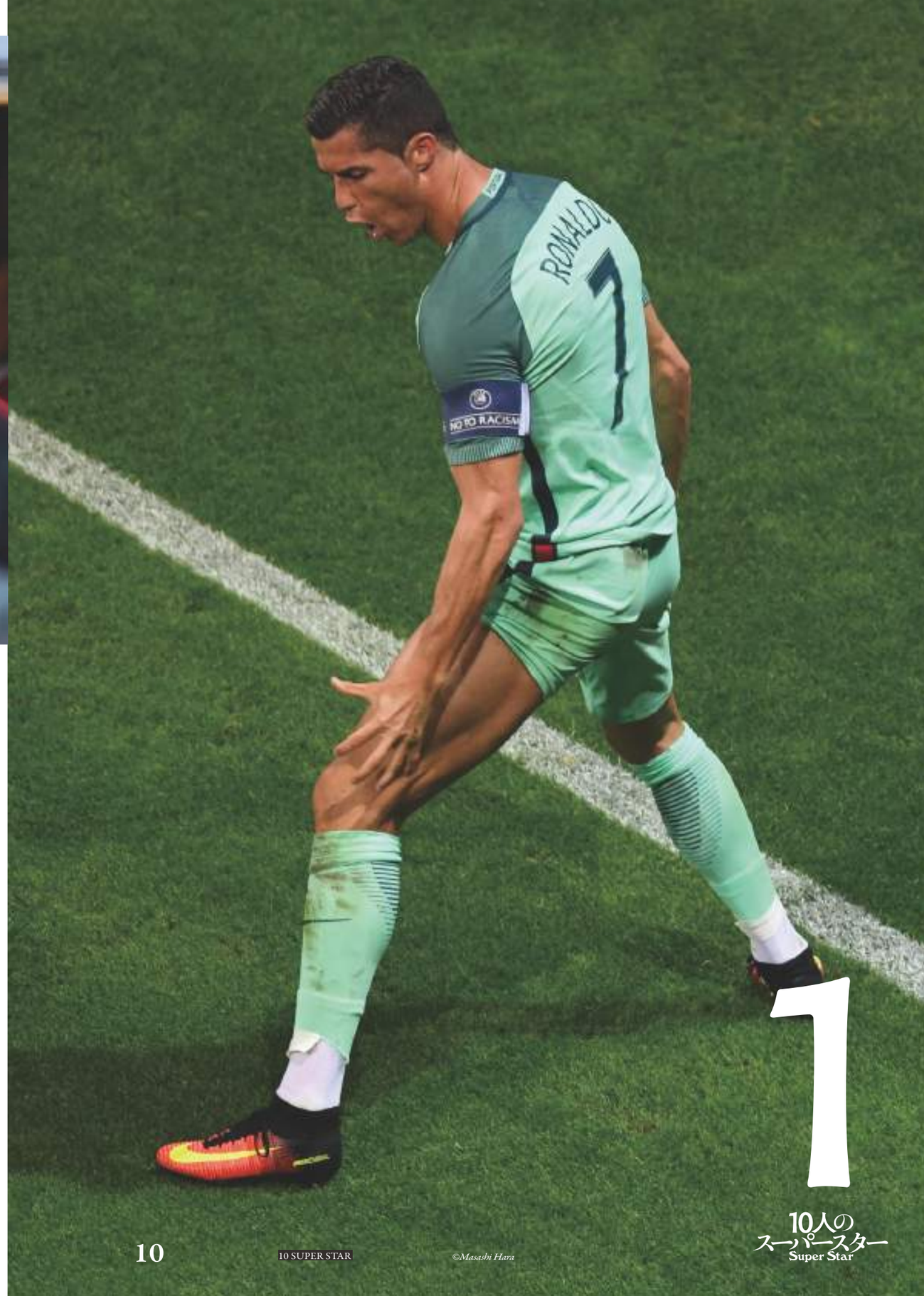
# クリスティアーノ・ロナウド
Cristiano Ronaldo

## 敵の数でメッシを凌駕。憎まれっ子世にはばかる

巧いか下手か。サッカー選手を大別しようとしたとき、物差しとなるのが柔らかさだ。巧い選手ほどボールタッチ及び身体の動きが柔らかい。例外はある。だが、2016年のバロンドール受賞者で、これが計４回目の受賞になるスーパースターがそこに含まれるとなると驚きだ。巧い下手の識別方法を顧みる必要に駆られる。動作は確かにカクカクしているが、それがむしろフェイントになっている。トップスピードで走り、急ブレーキを踏み、大きく方向を変え、ドカンとシュートを放つ。ゴール前の混戦でも、鋼入りかと思わせる硬い身体を武器に体勢をキープ。抜群の決定力を発揮する。もうひとりのスーパースター、メッシとは180度異なるタイプだ。常識的に見えるのはメッシ。相手のサポも思わず好きになってしまう愛されキャラであるのに対し、Ｃ・ロナウドは常にブーイングの対象となる悪役だ。しかし、その分だけ人間臭い。おかしさという点で、メッシを大きく上回る貴重な存在だ。

文／杉山茂樹






1

10人の
スーパースター
Super Star

# 羽生結弦

Yuzuru Hanyu

©Naoyoshi Sueishi

## 表現力に長けた唯一無二の存在

プレゼンテーションスポーツで日本人がこれだけ強いのは珍しい。しかも、男子で、だ。高橋大輔も世界のトップレベルだったが、また違った雰囲気があり、醸し出しているフェロモンが少し違う。手足が長く、スタイルがいい。スケーティング中も含めて、表情にもグッと引き込まれる。演技終了時は歌舞伎の見得に匹敵する選手の見せ所だが、その瞬間の表情には思わず歓声をあげたくなる。また、身体が柔らかく動きがしなやかで、たとえばビールマンスピンの美しさには定評があり、女子選手の柔らかさを凌ぐとも言われている。「フィギュアスケートの撮影なんだけど、羽生結弦の一挙手一投足を撮っている感じになる」と語るカメラマンもいるほどだ。採点（構成点）には動作、身のこなしや振り付け、曲の解釈という部門もあるが、羽生結弦は誰よりも自分を見せる力、いわゆる表現力に長けている。無論、そのベースには高度な技術力が存在していることを忘れてはいけない。

文／飯塚健司

©Naoyoshi Sueishi



2

10人のスーパースター Super Star

# 松山英樹
Hideki Matsuyama

## メジャー制覇を目指す

軸がぶれない。あれだけスイングのスピードがありながら下半身が全く動かない。それは上半身の遠心力に負けない下半身を鍛えているからだ。動かない下半身はパットの安定感にもつながる。松山のトレーニングは、下半身を上半身の3倍鍛えているという。それが、大崩れしない彼のプレーを支えているといってもいい。まだ25歳という若さながら、今年2月のウェイストマネジメント・フェニックスオープンで優勝し、日本人最多のPGAツアー4勝目を達成。2月末に発表された世界ランキングでは4位となり、中嶋常幸が1987年に記録した日本人男子最高位に並んだ。間違いなく、歴代日本人最高の選手。派手なガッツポーズはほとんどしない。口下手で優勝インタビューでも、スポーツ紙の見出しになるような気の利いたコメントをするわけでもない。どんな勝ち方をしても満足せず、浮かれることなく次を見据えている。その先には、メジャー制覇という大きな目標があるからだ。

文／渡辺達也

3
10人の
スーパースター
Super Star

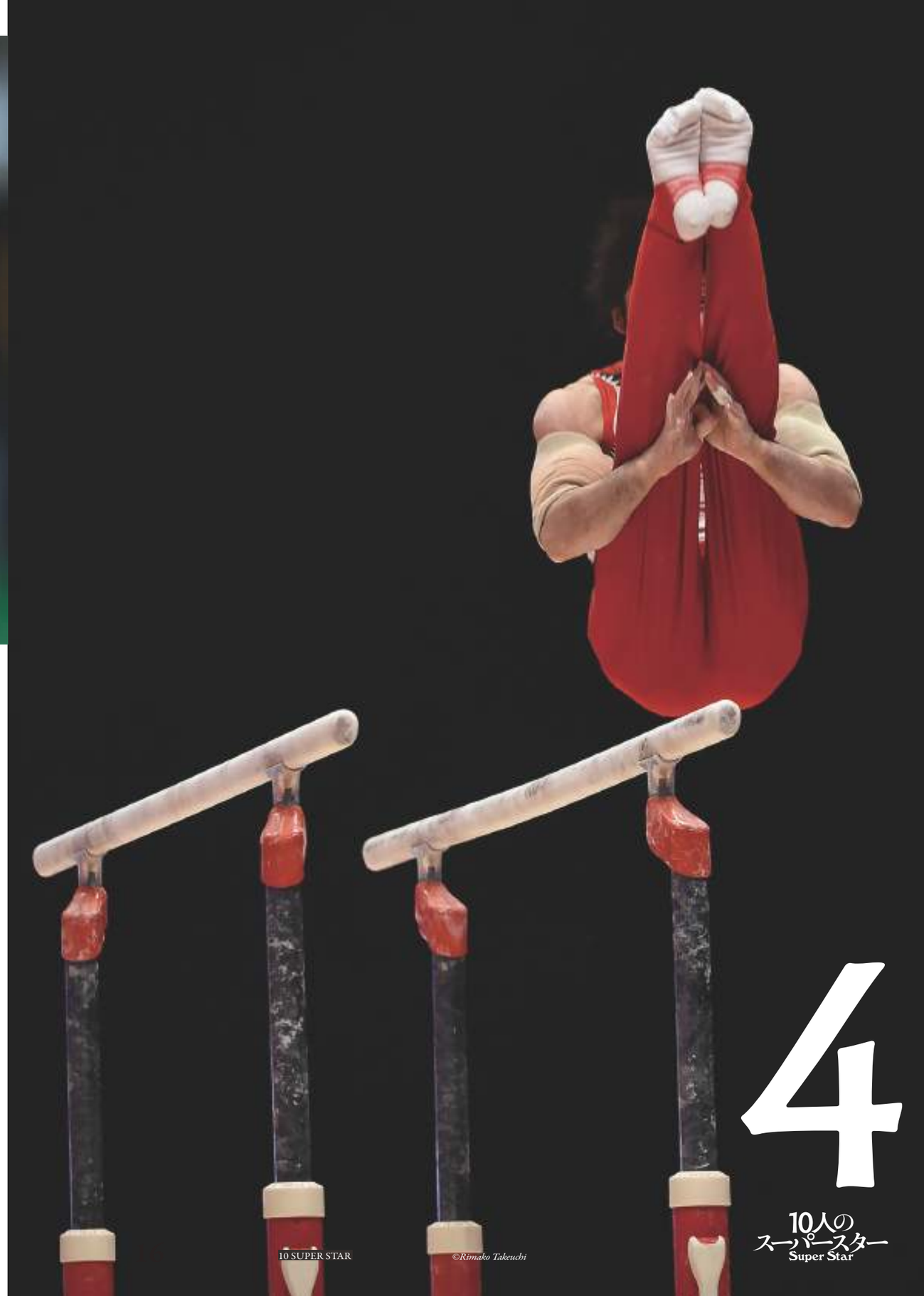
# 内村航平
Kohei Uchimura

## 王者が挑む新境地

リオデジャネイロ五輪で悲願の団体金メダルを獲得、個人総合でも2連覇を果たした内村航平が昨年12月1日、日本体操界初のプロへ転向した。世界大会で獲得したメダルは五輪金メダル3個、世界選手権金メダル10個を含む計26個。ゆか、つり輪、平行棒、鉄棒、跳馬、あん馬とすべての種目をトップレベルでこなすオールラウンダーである。28歳の内村がピークを維持していくことは簡単ではない。常に“プロ意識”を秘めて人一倍の練習量を積み、鍛え上げてきた彼が満を持して下したプロ転向の決断。リスクも覚悟の上だ。内村に個人総合で0.99差にまで詰め寄ったオレグ・ベルニャエフのように内村を凌ぐ高難度構成を掲げる選手も出てきた。極限のプレッシャーのなかで次々に繰り出される高難度の技にピタリと止める王者の着地。「まだ価値点は上げられる」(内村)。独壇場だった世界にようやく現れた好敵手と環境の変化が、内村を未知なる世界に引き上げてくれるかもしれない。

文／早草紀子






4

10人の
スーパースター
Super Star

©Miki Sano

# 伊調 馨
Kaori Icho

## 理想を追究する天才レスラー

五輪4連覇の偉業を成し遂げたその瞬間、伊調馨に笑顔はなかった。1ポイントをリードされ、残り4秒での逆転劇だった――にも関わらず、マットに立つ彼女からは優勢でありながらトドメを刺せなかったことへの不満足感がにじみ出ていた。結果だけでなく自らが目指すレスリング道へのこだわりを見せた瞬間でもあった。レスリング界を牽引してきた吉田沙保里が努力型であれば、伊調は天才型だ。加えて研究家。懐が深く、柔軟性を活かした動きが攻守において多彩な技を持つ伊調を支える。体幹と絶対的なバランス感覚を武器に、絶えず理想とするレスリングを追究してきた。男子とのトレーニングから新たな可能性も感じている現在32歳。今後の道は未定だが、理想のレスリングへの想いは未だ薄れていない。生粋のレスラーが自らの道を極めたとき、彼女はどのような表情を浮かべるのか。その舞台が東京五輪であってほしいと願わずにはいられない。

文／早草紀子

5
10人のスーパースター
Super Star

# AJPS会員が語る 10の個性 part 1

鋼のような身体を持つスター。
自分を魅せる力に長けた王子。
あくなき向上心を持つ愚直な男。
新たな挑戦をはじめた王者。
自己満足に基準がある女王。
いずれもその世界を極めた者たち。
それぞれ、どんな個性を持つのか。
側(そば)で取材を続けるAJPS会員が、
その魅力をひもとく――。

## 1 鋼鉄の身体を持つ男 クリスティアーノ・ロナウド

©T.Fujita

**スエイシ** 身体が硬い印象があるのに、あのプレーができるのはすごい。
**杉山** 柔軟性があるんだよ。頑丈で弾性がある鋼鉄みたいな感じ。体幹が強くて、バランスも崩れない。
**岸本** トップスピードも速くて、相手と接触する前に抜け出している。
**藤田** 動きがカクカクしているけど、いつの間にかという印象がある。
**杉山** 急ブレーキがかかる。
**生島** 膝のクッションが良いのかな。
**杉山** それと、スーパースターなのにすごくムキになる。
**スエイシ** 去年のクラブW杯決勝戦でも必死にボールを追いかけていた。
**戸村** あのレアルが走っていた。
**藤田** 負けたらカッコ悪いし、恥ずかしい。そりゃ走るよ。でも、バルサなら走らないと思う(笑)。
**杉山** 言ってしまえば、メッシよりも子どもっぽい。大人げない部分もあるけど、C・ロナウドのほうが根はいい人な感じがする。
**藤田** メッシにはアルゼンチン人特有のしたたかさがあるのかな?
**杉山** でも、世間は圧倒的にC・ロナウドにブーイングする。
**藤田** メッシはバルサ一筋っていうのも大きい。チームを動くと敵も作るけど、メッシにはそれがない。

## 2 圧倒的に高い自己表現力 羽生結弦

©K.Aoki

**杉山** それに、メッシは相手のファンも虜にしてしまう。C・ロナウドに対しては、「この野郎!」となるのに。
**木下** カッコいいからじゃない?
**佐野** そう、カッコいい! 撮影したときに「膝をついてください」とお願いしたら、快くやってくれた。
**杉山** 基本、いい人なんだよ。プレーに戻ると、あれだけ得点する選手はシンプルにすごいし、珍しい。
**藤田** そこを見落としてはいけない。
**佐野** 決めるときは一撃でズドンだから。
**岸本** GKも怖いと思う。
**杉山** 以前は能力の高い選手は10番だった。ジーコ、プラティニ……。いまはCFの時代で、C・ロナウドのような選手がいるからどれだけ守備を固めても守り切れないんだ。
**生島** 日本人が一番苦手とするプレゼンテーションスポーツで、これだけ強いのは珍しい。しかも、男で。
**戸村** 高橋大輔のさらに上をいっている感じがする。
**佐野** 終わったときの表情がすごくて、歌舞伎の見得のように人をひきつける。すごい集中力だと思う。

## 3 過去最高の日本人ゴルフ選手 松山英樹

©N.Sueishi

**藤田** 男臭いフェロモンだったのが(高橋)大輔。羽生はまた違う。
**岸本** 次にこの表情がくるとわかっていても、撮らされてしまう。
**藤田** フィギュアスケートの取材なんだけど、いつの間にか羽生の一挙手一投足を撮影している。
**杉山** もう、完全にアイドルだね。
**生島** そういうのも含めて、プレゼンテーション能力が高い。
**戸村** しっかりと「自分」というものを持っている。それが揺らがない。
**岸本** 手足も長いし、スタイルもいい。見栄えがいいんだ。
**スエイシ** 身体もすごく柔らかい。
**岸本** ビールマンスピンは女子選手よりも綺麗かもしれない。
**佐野** フィギュアスケートは採点競技で、高い得点を出すためには技術力とともに表現力がないといけない。
**スエイシ** 身のこなしや振り付け、曲の解釈という採点もあるからね。
**佐野** 技術力だけじゃなくて、そういう部分にも強いからこそ頂点に君臨できているのだと思う。
**岸本** もう、敵がいない感じ。羽生の敵は、羽生なのかもしれない。



**スエイシ** スイングスピードが速い。同じ競技を撮影していて、あれだけ他選手と差を感じるのは珍しい。
**杉山** パワーの源は太ももかな?
**岸本** 相当筋力トレーニングをしていると思う。
**スエイシ** 下半身がぜんぜん動かない。
**戸村** 背中もカッコいい。
**杉山** よく比較される(石川)遼くんよりいい身体をしている。
**岸本** たしかに、まったく違う。それに、松山は優勝しても笑わない。
**藤田** 2人はどうしても比べられる。遼くんが真面目なのにチャラい感じで見られるのに対して、松山は笑わないのが人間的に受けている。
**木下** それでも、最初のころに比べたらだいぶあか抜けたと思う。
**藤田** 青木(功)さんも40歳を過ぎてからいまのようになっていった。
**スエイシ** 本人もその辺りは気にしていて、メディアに話したり話さなかったりは良くないと自覚していた。
**岸本** だけど、だからこそちょっとはにかむとたまらない魅力がある。PGAツアー4勝目(ウェイストマネジメント・フェニックスオープン)のときも、浮かれていなかった。
**スエイシ** メジャー制覇しか見ていないと思う。過去にマスターズのアマチュアで1位になっているから。
**杉山** すでに4勝しているけど、高い志があってぜんぜん喜んでいない。日本人スポーツ選手のなかで、なかなかいない存在なのでは?
**スエイシ** 客観的にみて、過去最高の日本人ゴルフ選手だと思う。

## 4 前例なきプロでの新たな挑戦 内村航平

©N.Sueishi

**藤田** いよいよプロになった。自信があって、キャラクターバリューや下地もある選手はプロになる時代だよ。水泳の萩野(公介)や陸上のケンブリッジ(飛鳥)もプロになった。
**岸本** 単純に「より強くなりたい」という気持ちとともに、内村の場合はセカンドキャリアも考えたと思う。
**木下** 金銭的な面もあるのかな。
**藤田** 正直、もう若くない。僅差だったリオ五輪を終えて、プロとしてやってみたい気持ちが強くなったのかもしれない。
**スエイシ** 世界一になって同じことを続けても面白くない。変化があったほうがまた感動を得られるし。
**杉山** 極論 ダメでも許される。
**岸本** 白井(健三)くんの目指す東京五輪と、内村が狙う東京五輪は違うからね。
**藤田** きついのは内村。本当のオールラウンダーだから。そういった意味で、今後はケガが怖い。体操は選手層が厚く 選考がシビアだから。
**生島** これまでケガは?
**藤田** リオ五輪のときも肩を傷めていて、満身創痍だった。そもそも、体操は複雑な種目を6つもこなす。しかも、跳んだり跳ねたり。
**スエイシ** 常にマックスで臨まないといけない。7割の力で練習とか有り得ない競技だ。
**生島** 体操界で初のプロになるわけだけど、展望や可能性は?
**藤田** 環境が変わるので、読めない部分もある。だけど、前例のないことをやって東京五輪を目指しているので、すごく面白いと思う。

## 5 バランス感覚に優れた天才 伊調 馨

©M.Sano

**佐野** (吉田)沙保里が運動能力の高い努力の人だとすると、(伊調)馨はバランス感覚に優れた天才。レスリングは昔、決着がつかないと片足を取ったクリンチの状態からはじめる延長戦をやっていた。
**藤田** 30秒以内にどちらかがポイントを取ったらその時点で終了。お互いに無得点のときは不利な態勢ではじめた選手の勝利だった。
**佐野** 片足を取られて押されたら普通は倒れるけど、馨がやられているのを一度も見たことがない。体幹が強くて、平衡感覚もすごい。
**岸本** 自分から攻めても、相手に攻められても強い。
**生島** 受けが強いんだね、圧倒的に。
**杉山** 懐が深いのかな。
**生島** 吉田は相手との間合いを取るけど、伊調は組んで勝負する。生粋のレスラーだなと思う。
**佐野** 沙保里は間合いを取って、瞬時の判断で突っ込むスタイル。力でいく感じ。どちらかと言うと、馨は軟体動物っぽい。
**木下** 闘志を表に出さないよね。
**岸本** 少し松山に似ているかも。勝って当然なのかもしれない。
**佐野** リオ五輪で優勝したときも、4連覇というより……。
**木下** 喜んでいなかったね。
**佐野** 最後に相手のバックを取って落としていたら2ポイントで確実に勝ちだったのが、抱えた状況で終わってしまった。それが悔しくて仕方なかったと言っていた。
**戸村** 止めを刺せなかった?
**佐野** そう。しかも相手がそんなに強い選手ではなかったから、余計に嫌だったと。基本的にいつも自分のレスリングに満足していなくて、リオ五輪の優勝も反省点のほうが強かったみたい。
**杉山** 基準が「自己満足できたかどうか」にある。やっぱり、松山と似ているかもしれない。

構成/飯塚健司

6

10人の
スーパースター
Super Star

©Takao Fujita

©Takao Fujita

# 萩野公介
Kosuke Hagino

## プロスイマーという厳しい道を選択

ロンドン五輪の400ｍ個人メドレーで銅メダルに輝き、リオ五輪では同じ400ｍ個人メドレーで金メダル、200ｍ個人メドレーで銀メダルを獲得。さらに、4×200ｍフリーリレーでも銅メダルを得ている。本来、メディアがもっと大きく取り上げるべきアスリートで、米国におけるマイケル・フェルプスのような扱いでもおかしくない。しかし、実際はそうなっていない。萩野公介は真面目でストイック。真摯に練習へ取り組むタイプで、だからこそ速い。五輪で複数のメダルを獲得し、十分に結果も残している。一方で、水泳界には話題性のある人材が多く、北島康介が残したインパクト、池江璃花子の持つ可能性などがどうしても先行している。ただ、なにかが変わりつつある。生存競争が激しい水泳界で突出した存在になるべく、2017年春を迎えてプロスイマーとなった。明確なターゲットである2020年東京五輪に向けて、より厳しい環境に身を置いて鍛練する道を選んでいる。

文／飯塚健司

©Yuichi Masuda

©Yuichi Masuda

# イチロー
Ichiro

## 記録にも記憶にも残る才能

天才か努力家か。2016年のイチローは数々の記録を打ち立てた。メジャー通算3000本安打、日米通算4300本安打、メジャー通算500盗塁、日米通算700盗塁。1991年、愛工大名電高からドラフト4位でオリックス・ブルーウェーブ（現オリックス・バファローズ）に入団したイチローが、ここまでの数字を残せると誰が予想しただろうか。華奢な身体で、7年連続首位打者を手土産にメジャーに挑戦。筋トレは柔軟性を失い身体のバランスを崩すと、代わりに取り入れたのが、ストレッチを主体とする初動負荷トレーニング。それが柔軟性、敏捷性を生みケガをしにくい身体を作ってきた。そしてルーティン。起床から就寝までほぼ同じ行動をする。球場入りから練習方法まで乱れることはない。それが試合をするための準備であり、変化があればケアをする。それを10年以上も続けている。43歳でも、野球の最高峰であるメジャーで、今も必要とされているのは、その努力の賜物である。イチローの記録は天才が努力した結果である。

文／渡辺達也

©Yusuke Nakanishi

# ウサイン・ボルト
Usain Bolt

## 強さとチャーミングさを兼ね備えた絶対王者

陸上の華である100mは、スポーツの頂点に立つと言われる。考えてみれば、とてもシンプルな競技だ。誰が最速なのか、同時に走って決める。決着までの時間は、わずか数秒。スタート直前は競技場が静寂に包まれ、号砲とともに一斉に沸き上がる。抑えられない興奮、記録への期待などがそこに存在する。そうしたなか、他選手よりも後方となる70m付近で最高速に達するウサイン・ボルトはいつも観戦者をドキドキさせる。しかし、だいたい笑顔で、ときに横を見ながらフィニッシュする。心配、不安から安堵、歓喜へ。誰もが感情を揺さぶられる。そして、お茶目に“ライトニング・ボルト”を決める王者から目を離せなくなっている。世界最速の男は、他競技も高いレベルでこなす。過去にはプロサッカー選手への転身を考えていたことがあるし、クリケットの腕前も相当だ。余力がありそうなレース内容に、強烈な個性。絶対的な強さと、人々を魅了するチャーミングさがある。

文／飯塚健司

8
10人のスーパースター
Super Star

# 錦織 圭

Kei Nishikori

## ビッグ4の壁を超えろ

超えられない壁はあるのか。今年1月の全豪オープン4回戦。錦織は元世界ランキング1位のロジャー・フェデラーに3時間24分に及ぶ死闘を繰り広げフルセットの末敗れた。第1シードのアンディ・マレー、第2シードのノバク・ジョコビッチが敗れ、錦織にとって優勝のチャンスだっただけに、ビッグ4の一角が壁となって立ち塞がった形だ。178cmとプロテニス選手としては小柄ながら、体格の差を類まれなセンスと抜群のストロークでカバーし、世界屈指といわれるリターンで勝負していた。2014年全米オープンでは、日本人初の決勝進出を果たし、世界ランキング4位まで上り詰めたこともある。残る目標はグランドスラム優勝だが、ビッグ4の壁は高い。錦織も今年で28歳を迎える。テニスプレーヤーとしては、決して若くはない。グランドスラム優勝は簡単なことではないが、錦織はこれまで、日本人が越えられなかった大きな壁を、一つひとつ乗り越えてきた。

文／渡辺達也

©Yusuke Nakanishi

©Jun Tsukida

# 高梨沙羅

Sara Takanashi

## W杯53勝目でも拭えない不安

ジャンプはリアクションではない静態から始まる。似た競技はゴルフ。問われているのはフォームの追究だ。ベストフォームをいかに維持、管理するか。自分自身の姿は見えないのでチェックは難しい。いつ成績が急降下するかわからない恐怖と、ジャンパーは常に向き合っている。そうしたなかで、高梨沙羅は今季のW杯ピョンチャン大会第２戦で通算53勝目をマーク。男子のシュリーレンツァウアーと並ぶ記録だ。しかし、女子ジャンプは男子に比べて歴史が浅い。追究の余地がある。全体のレベルは右肩上がりを示している。外国勢との差は接近中だ。この優勝ペースは彼女が好調をキープしても次第に鈍っていくだろう。ソチ五輪では本命に推されながら４位。ジャンプの競技性が露呈した一件とも言えるが、ピョンチャン五輪に向けたストーリー性は増した。W杯での勝利の積み重ねは、実力に他ならないが、一発勝負の五輪で金メダルを獲得するには実力＋運が必要になる。幸運を祈りたい。

文／杉山茂樹

©Takasu Tsutomu

10

# AJPS会員が語る 10の個性 part2

変革を求めてプロになった男。
飽くなき努力を続けた天才。
誰よりも強く、愛嬌がある絶対王者。
グランドスラム制覇に近い日本人。
悲願の五輪制覇を目指す雪上の女王。
この5人もまた、異なる個性を持つ。
期待、展望、将来像――。
それぞれのアスリートについて、
忌憚なく語り尽くす。

## 6 プロ転向でなにかが変わる予感 萩野公介

©T.Fujita

**岸本** 活躍に比べて、メディアであまり取り上げられていないと思う。

**藤田** 水泳界には北島（康介）という存在がいたから、どうしても比べられてしまう。萩野は真面目でストイック。五輪で結果も出した。だけど、それがすぐに高い評価やお金につながるかと言えば、必ずしもそうじゃない。アスリートには自分を表現する力も必要なんだ。

**スエイシ** プロスイマーになったのは、そのあたりを考えてのことかな。

**藤田** そう。プロになることで、これから変わっていくかもしれない。

**生島** 個人メドレーであれだけ強いのは、素直にすごいと感じる。

**杉山** 今までにいなかった日本人選手なのは間違いない。

**生島** 萩野の実績を考えたら、アメリカにおけるマイケル・フェルプスと同じくらい価値がある。だけど、国民性なのか本人のキャラクターなのかわからないけど、日本国内ではそうなっていない。ポテンシャルがあるのは間違いないんだ。

**木下** 個性的な選手と時期がかぶってしまった。北島もそうだし、瀬戸（大也）や池江（璃花子）もいる。誰もいなかったら、人気や話題を独占していたかもしれない。

**藤田** 速い、強いを考えると、萩野は間違いなく速い。一方で、強さという面ではまだ物足りないのも事実で、世界新記録を一度も出していない。だけどまだ21歳だし、平井（伯昌）コーチもいろいろと指摘している。プロになることで、やっぱりなにかが変わるかもしれない。

**生島** そして、東京五輪でどんなパフォーマンスをするかかな。

**藤田** 言葉が難しいんだけど、カメラマンから見た魅力、面白さ、強さがもう少しほしい。話題性のある選手が多いなか、存在感を示さないといけないのは萩野自身だから。

©Y.Nakanishi

## 9 グランドスラム制覇を期待 錦織 圭

**木下** 素直に強いと思う。

**岸本** 一方でケガも多い。エア・ケイの影響なのかな。

**藤田** たしかに、肝心なところでケガに泣いているイメージがある。

**スエイシ** あれは理に適っているの？

**生島** プロとして魅せるプレーだと考えていい。本来、やらないほうがいい。（松岡）修三さんもダメだと言っていた。

**木下** ジャンプして2mぐらいの高さから打つわけではないしね。

**岸本** ケガがつきまとうプレーだと言える。ここ数年が選手としてピークだろうから、いろいろ考えないと。

**藤田** グランドスラムで優勝してほしいけど、やっぱり壁がある。

**杉山** 今年の全豪オープンを見ると、（ロジャー）フェデラーには勝てないなと思ってしまう。

**生島** フェデラーと（ラファエル）ナダルの決勝には感動した。

**戸村** ああいう強さがまだない。

**藤田** チャーミングだよね。

**岸本** みんなに愛されている。

**藤田** あの身体の大きさ、レースでの強さがあって、さらにお茶目。照れ屋な面もあって憎めない。

**スエイシ** フィニッシュラインで力を抜くのがまたいいのかもしれない。

**岸本** 一度、最後まで全力で走ってほしい気持ちはある。

**生島** 他選手と比べて、ボルトは最高速が後ろにある。70m付近がもっとも速くて、その後は減速している。最後に伸びているのではなくて、相対的な速度が速いから強い。

**杉山** 陸上の100mは、スポーツのなかで特別な種目だよね。

**藤田** すべてのスポーツの頂点に立つのが、100mだと思っている。

**戸村** 最後に決勝を走るのは8人。地球上で速い選手がそこに揃っていると考えると、興奮する。

**杉山** 北京五輪のときは、約10万円のチケットを買って観戦した。100mの決勝だけは高い。だけど一瞬で終わってしまうんだ。

**木下** カメラマンとしては一番緊張する瞬間でもある。なにせ、9秒で終わってしまうから。

**スエイシ** 短いから、みんなすごく集中している。

**藤田** サッカーや野球だとうまい選手がどこかに埋もれているかもしれないけど、100mにはそれがない。必ずどこかで見出されている。そのなかでボルトは勝ち続けていて、世間の興味がいかに勝つか、記録はどうかになっている。こんな注目のされ方をするアスリートは他にいない。だから、ボルトだけはドーピングで捕まらないでほしい。

**戸村** （クスリに）頼らなくても、人はここまで速くなれるという存在であってほしい。

## 7 天才が努力をした完成形 イチロー

©Masuda

**スエイシ** プロのスカウトは先見の明がある。若いころの華奢な身体を考えたら、いまを想像できない。

**岸本** たしかに、オリックスに入団したときは身体の線が細かった。

**戸村** 鈴木一郎の時代だ。

**生島** 基本、自重トレーニングしかしないと言っていた。それが、ケガをしないことにつながっている。

**岸本** 股関節がすごく柔らかい。

**生島** 19時からのナイターのときは12時40分くらいに球場入りして、マッサージを入念にやっている。イチローこそルーティンの人だよ。

**杉山** 打席に入るときも身体を動かしている。四六時中、体操しているイメージがある。

**岸本** あそこまで徹底している野球選手は他にいないと思う。

**杉山** 肩は衰えないのかな？

**スエイシ** あのレーザービームはすごい！

**藤田** 本来は衰える。1球ごとに、毛細血管が切れているんだから。

**佐野** 外野手もそうなの？

**岸本** もちろん。イチローは肩も強いけど、全身を使って投げている。

**生島** アメリカだとストロング・アームという表現をする。肩だけではなくて、全体的な強さが必要。ピッチャーだと岩隈（久志）が代表的かな。

**戸村** なるほど。

**岸本** 結局、イチローはすべて揃っている。2009年のWBCに優勝したときも、いつも勝負強かった。

**スエイシ** 足の速さも大きいと思う。

**藤田** 内野ゴロならヒットになる時代があったからね。

**生島** そして、2盗、3盗して内野ゴロで生還する。盗塁に関しては、感覚らしいです。〝いける〟という気配を感じるらしい。

**岸本** その集中力がすごい。

**木下** 天才が努力をしたから、他に類を見ない選手になったと――。

©T.Fujita

## 8 誰からも愛される絶対王者 ウサイン・ボルト

**木下** 格の差を感じるよね。

**生島** ただ、テニスは試合数が多く、全員がいつも調子いいわけではない。そこにチャンスがある。

**佐野** すぐに次の大会だからね。日程を終わらせるために、夜中の12時から試合をしているときもある。

**スエイシ** 体力や精神力、それに判断力を一番使うスポーツだよ。1対1の勝負だから。

**藤田** 試合中にコーチと話すこともできない。相手の情報もすべて事前にインプットしないといけない。

**生島** だから、ATP世界ランキングで4位までいくのはすごい。

**杉山** 身体の大きさも違うからね。

**生島** テニスとゴルフの4大大会で勝利するのと、陸上の男子100mで9秒台を出すのは真に価値があるとボクは考えている。だから、錦織にはグランドスラムで勝ってほしい。

©T.Takasu

## 10 ピョンチャン五輪を制して真の女王へ 高梨沙羅

**杉山** いつ勝てなくなるだろう。そう考えるくらい、海外では勝ち続けている。W杯で53勝だよ。

**藤田** あれだけ飛べるのに、一方で国内の大会では勝てない。

**木下** プレッシャーに弱いのかな。

**藤田** たしかに、それはある。勝たないと、というプレッシャーだね。

**戸村** 2014年のソチ五輪もそうだった。W杯や世界選手権では勝てるけど、大事なところで勝てない。

**木下** 来年開催されるピョンチャン五輪はどうなるだろう……。

**岸本** 今年だったら勝っていたかもしれないけど、1年後はまたぜんぜんわからない。

**藤田** 間違いなく、他の選手たちのレベルが上がってきている。実力差は本当にわずかしかない。

**杉山** ジャンプはアプローチでのちょっとした体重のかけ方で飛距離が5m～10mは変わってくる。そうしたなか、2本しか飛べない。

**岸本** 1本失敗したら終わりだ。

**藤田** ジャンプ台との相性もある。

**戸村** 得意、不得意があるらしい。

**藤田** ソチのジャンプ台は傾斜角度が緩かった。G（重力加速度）が上からかかってきて、最後は身体に染み込んでいる感覚で飛び出すんだけど、傾斜によってGが違ってくる。葛西（紀明）は緩い台が得意なんだけど、高梨は苦手だったのかもしれない。

**杉山** そのとおりで、それぞれアプローチも違ってくると思う。

**生島** 全体のレベルも上がっているし、そうしたジャンプ台の事情もある。ソチ五輪よりも、来年のピョンチャン五輪のほうが大変なのは間違いない。

構成／飯塚健司

# もう一つのスポーツギア

## パラアスリートのマテリアル

文／宮崎恵理

**パラアスリート。**
**それはパラリンピックをはじめとする障害者スポーツで高みを目指すアスリートのこと。**
**彼らは自分の障害に応じて、競技力向上のために創意工夫を凝らす。**
**競技専用の義肢装具は、重要なギアだ。用具から見えてくるパラスポーツの魅力に迫る。**

# GEARS

PARA-ATHLETE'S MATERIAL

©Naoyoshi Sueishi

↑多川知希（たがわ・ともき）1986年、神奈川県生まれ。AC・KITA所属。先天性右肘先欠損。2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ・パラリンピックに出場。リオでは男子立位400mリレーで銅メダルを獲得した。

©Kazuzi Shimizu

→選手は陸上競技用車いす（レーサー）に正座する姿勢で乗り込み、前傾を維持しながらホイールを回し続ける。スタート直後は力が必要だが、トップスピードに乗ればまさに自転車のごとく疾走。ギアはなくブレーキは装備されている。

### 自分の身体を生かす、それが義肢装具。

「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」

これは、障害者スポーツの父と呼ばれる、ドイツ人医師のルードウィッヒ・グットマンの言葉である。第1回パラリンピックが開催された1960年以来、パラリンピックを象徴するキーワードであり続けている。

「海外の選手に比べると、どうしても体格ではかなわない」

「もともとの身体能力が違う」

さまざまなアスリートたちを取材していると、そんなコメントに出会うことが少なくない。でも、小さいけれど運動量なら負けない。練習で培ってきたスピードが武器。アスリートたちは、己の欠点を補い、強みを磨きに磨いて目の前のライバルやまだ見ぬ記録に立ち向かっていく。

パラアスリート（障害のあるアスリート）も、全く同様だ。誤解を恐れずに言えば、障害はひとつの身体的特徴である。

先天的に身体の一部が失われている人もいる。病気や事故である日突然、機能を失ってしまったという人もいる。障害は、一人ひとり状態や程度が異なる。高みを目指す視線と情熱は同じでも、取り組みやアプローチは千差万別なのだ。

腕や足の一部を失った人は義手、義足を装着する。麻痺が残る身体でも車いすを使用することで不便を解消することができる。そうして、これらの義肢装具は、さまざまなパラリンピックの競技で選手を支える重要なマテリアルでもあるのだ。

### 走る、跳躍する。陸上競技で活躍する用具。

パラリンピックでも人気が高い陸上競技を見てみよう。障害者の陸上競技には、大きく分けて立って競技ができる選手、車いすが必要な選手、視覚障害、知的障害のカテゴリーがある。そのなかで、立って競技ができるカテゴリー、車いすのカテゴリーで競技用の義肢装具が使われることが多い。

上肢切断や欠損の選手が身につける義手は、スタート時、クラウチングスタートを容易にする。下肢切断などの選手が使用するのが義足だ。板バネと呼ばれるカーボンファイバー製の〝脚部〟はライオンやヒョウなどの後ろ脚を彷彿とさせる独特のフォルムをしている。

陸上競技用の車いすは「レーサー」と呼ばれる。日常生活用の車いすとは異なり、大きな2つの後輪と長いフレーム、その先に小さな前輪から構成されているのが特徴だ。マラソンの下りでは時速50km以上に達することもある。まるで自転車だ。実際、後輪には自転車メーカーのディスクホイールを装着している選手がほとんどである。この後輪を力強く両腕で駆動させて、記録に挑戦するのだ。

当然のことながら、これらの義肢装具は、使用する選手によって大きさや形状が全く異なる。スキー競技で選手が使用するスキーやブーツは、選手の体格やスタイルによって数多くあるモデルの中からチョイスする、ということと同様なのだ。そこにプラス、選手それぞれの障害の状態や程度を加味しなくてはならない。

義手や義足を体に装着する部分であるソケットは、全てハンドメイドで作られる。このソケットが身体にフィットしなければ、歩くだけでも痛みや違和感が生じてしまう。走る、跳躍するなど激しい衝撃が伴うため、カーボンファイバーなど剛性の高い素材を採用する必要もある。

©Naoyoshi Sueishi

# GEARS

©Atsushi Tomura

山本篤（やまもと・あつし）1982年、静岡県生まれ。スズキ浜松AC所属。高校2年の時、バイク事故で左脚大腿部を切断。2008年北京からパラリンピックに出場。走り幅跳びでは北京、リオで2個の銀メダル、リオのリレーで銅メダルを獲得した。

人工の膝部分や板バネなどの各パーツはメーカーのプロダクトをセレクトして組み合わせるが、骨格や身体のバランスを考慮して、ソケット、膝、脚部を取り付ける際に微妙にねじれを加える、角度をつけるなどバランスを整えるアライメントが不可欠だ。このアライメントはトレーニングなどによって身体の状態が変化すれば、それに応じて調整し直す必要も出てくる。

## 独自の工夫や調整、全ては競技力向上のため。

リオデジャネイロ・パラリンピックの男子走り幅跳びで銀メダルを獲得した山本篤は、自身義肢装具士の資格を持っている。義足の製作は専門の義肢装具士に依頼しているが、日常的な調整はほぼ自分で行う。

「板バネの硬さをアジャストさせるために、ほんのわずかに自分でサイドを削ったりします」

30m加速させてからの30m走でタイム計測し、ベストのタイムが出るまでアライメントの調整を繰り返すこともあるという。

義手を使用して初めてのリオ・パラリンピックに出場し400mで銅メダルに輝いた辻沙絵は、パラリンピックの1年前までスタート時には100円ショップで買い求めた適当な高さのボックスを利用していた。

「義手を使うことでスタートだけでなく、走っているときにしっかり両腕を振って走り抜くことができるようになりました」

自分にぴったりフィットする義手を得たことで、メダルに届く走りが実現したのだ。

こうした競技用義肢装具は、全て自費。レーサーはオーダーメイドの競技用自転車並みの金額になる、と言えば、どれほど高額かわかるだろう。

己に残されたものを最大限に生かすためのマテリアル。メーカーのテクノロジーと選手の工夫が凝縮されたスポーツギアなのである。

©Atsushi Tomura

辻沙絵（つじ・さえ）1994年、北海道生まれ。先天性右上肢欠損。高校時代からハンドボール選手として活躍し日本体育大学に進学したが、大学2年の時教師の奨めによりパラリンピックを目指してパラ陸上競技に転向。陸上を始めてから義手を使い始めた。2016年、初めて出場したリオ・パラリンピックの400mで銅メダルを獲得した。

# 体験隊が行く！

第1回

## アウトリガーカヌー編

# 6人の一体感に感激！

隊長 早苗紀子
隊員 スティーンナオヨシ

文／早苗紀子　写真／木下健二

### 準備運動は念入りに

穏やかに晴れ渡った絶好のコンディションのこの日、我々は神奈川県鎌倉市の材木座ビーチへやってきた。今回体験するのはアウトリガーカヌー。耳馴染みのない人も多いかもしれない。起源については諸説あるが、古来より荒れた海での破損を防ぐためにアウトリガー（浮力体）が取り付けられ、ポリネシア地方で広められたとされている。現在では競技スポーツとしても知られ、ハワイでは州技になっている。

朝9時。まずは保管場所からビーチまでカヌーを運ぶところから始まる。組み立て式とはいえ、全長は約14メートルの艇を運ぶのだから簡単ではない。狭い路地を曲がるにはちょっとしたコツが必要で、もはや車両の運転と言ってもいい。時折、路線バスや一般車両に追い越してもらいながらなんとかスタート地点のビーチまで運ぶ。別々に運んできたカヌーとアウトリガーをヤクと呼ばれる木製の部品で取り付ける。これで完了。いたってシンプルな作りだ。動力はもちろんすべて人力であるため、準備体操は入念に・・していなかったため、我々は後に痛い目に合うことになる。

### 大苦戦のち爽快に

漕ぎ方、掛け声などのレクチャーを受けること数分、木製のパドルを握りいざ出航！　全く戦力にならない素人を真ん中にはさみ、6名で漕ぎ出すこと15分。「ハップ」、「ホー」の声に合わせてパドルを駆使するもなかなか合わずに大苦戦。そうこうしている間にビーチははるか彼方へ遠のいた。わずか20分程度漕ぎ出たところで艇の下をのぞき込めば、真下の岩場まで見える。こんなに透明度が増すとは驚きだ。顔を上げると、左手前方には江の島、その向こうには富士山が雲の上から顔を出す。海面近くから見上げるは、ここまで来なければ出会えなかった絶景。慣れてくれば江の島まで行くこともできるのだとか。しかし、この時点で貧相な上腕二頭筋と腰は悲鳴を上げ始め、さらに周りの方に負担を強いるという体たらく。「いい波来たよ」と掛け声に合わせて再び意を決して漕ぎ始めたとき、初めて6人の息があった。先ほどまでの腕の重さはどこへやら――なんの抵抗を感じることなく艇は海面をすべっているよう。この日一番のスピードで波を捉え、グングンとカヌーは進んでいく。自分のパドルが前後の人をズレないよう、ついていくだけで必死だったが、なんとも言えない一体感に一気にテンションが上がった。その後は最後の力を振り絞ってビーチへ帰還。漕いだ距離は約8キロ。爽快な気分に浸れる1時間だった。老若男女問わず楽しめるのがアウトリガーカヌー。海を身近に感じたければ、あなたもパドルを握るべし！

巷にはまだまだ知らない
多くのスポーツが存在する。
ただ眺めていても始まらない。
日頃の運動不足を気づかぬ振りして
思い切って体験してみれば、
そこにはいつもと違う景色が広がっていた。

## OUTRIGGER CANOE

今回お世話になったのは……

Wailea Canoe Club Japan

神奈川県鎌倉市材木座 6-22-6 CRB 内
☎：0467-25-1717　e-mail：club@waileajapan.net




フレームマン frame-man

『スペシャルプライスプラン』
作品A－3or半切（30枚まで）だけご準備頂ければ、
これ以上一切頂きません!!

銀座で1週間の個展 or グループ展が
なんと ¥150,000円（税込）！
※プリントの出力も別途受け賜らせて頂きます。

ミニギャラリー（15枚迄）
¥30,000（税込）
早い者勝ち!! 応募殺到中

展覧会・グラフィック発表展におかれます額縁・パネル制作・作品二次加工全般を自社工場で行っております。会場施工・作品の美術輸送・展示作業・ライティング作業迄受け賜わり、展覧会の『トータルフィニッシュワーカー』を目指しております。

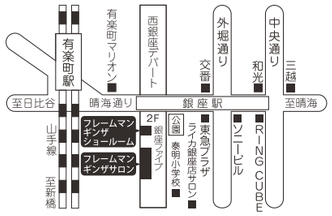
本 社

石原倉庫

千葉倉庫

詳細はこちらをご覧下さい http://www.frameman.co.jp/

エキシビションサロン銀座
フレームマン.ギンザ.サロン




〒104-0061
東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ2F
TEL & FAX 03-3574-1036（フォトサロン）
期間中無休/開館時間10時～19時
最終日は17:00まで

（株）フレームマン 本社
〒130-0026
東京都墨田区両国3－10－4
（旧 本所松坂町 吉良邸跡地内）
TEL 03－5638－2211（代）
FAX 03－5638－2219
Eメール frameman@frameman.co.jp
関連会社 プロフレーム（株）
TEL 03－3632－2620（代）

写真の一脚はカーボン一脚4型6段 GM4562

輸入総販売元：マンフロット株式会社
TEL.03-5404-6871（代） info@gitzo.jp

取り扱いブランド：マンフロット / ジッツオ / ラストライト / 他

# +2

10人のスーパースター

## 次世代の若き鼓動。

「期待の若手」の賞味期限は短い。
2、3年もすれば、若手の看板は外れる。
また、新たな期待の若手が登場する。
追う立場から、追われる立場へ。
すかさず立ち位置は入れ替わる。
新旧の競争が激しい競技ほどハイレベル。
いつまでも期待の若手でいられる競技は危うい。
若手を見れば、将来が占える。
スポーツ界の法則だ。

## 平野美宇
Miu Hirano

写真・文／水谷豊

### 嫌われる勇気を持つ16才

今年の全日本卓球選手権。3連覇中の女王・石川佳純を破り、史上最年少の16歳9か月で優勝を飾った平野美宇。

大会前から「優勝する」と言い続け、試合後の記者会見では「スポーツ選手は勝つことがすべてなので、好感度などは気にしない。嫌われても構わない」と語った。

今までのおっとりした彼女からは想像もできないような一言に、私は衝撃を受けた。そんな彼女を変えたのが昨年のリオ五輪代表の落選であろう。代表選考では4番手となり、惜しくも代表入りはならなかったのだが、現地には補欠として帯同し、同学年で代表になった伊藤美誠たちのトレーニングパートナーを務めるなどサポート役にまわった。

日本女子は団体で銅メダルを獲得。その歓喜の輪の中に入る事ができなかった。それは今までエリートコースを歩んできた彼女にとって、屈辱的であったに違いない。

その悔しさをバネに彼女は変わった。代表落選後に攻撃的に変えたプレースタイルは更に磨きがかかり、この日も石川のサーブを鋭いスマッシュでリターンするなど、想定外の攻撃で圧倒した。

彼女の成長に刺激を受けた他の選手たちも、このまま黙ってはいないはずだ。石川、伊藤に加え、世界ジュニア・団体でともに戦った早田ひな、加藤美優など今後の代表争いはさらに厳しくなっていくだろう。

2020年東京五輪では中国を破り、団体で金メダルを獲得する事も夢ではない。その歓喜の中心で喜ぶ平野美宇の姿を願っている。

# 石川祐希
Yuki Ishikawa

写真・文／坂本清
構成／早草紀子

## 日本待望のスパイカー

男子バレーボール日本最高の逸材と注目されているのが石川祐希、21歳。現在、在籍する中央大のスケジュールを調整し、短期間ながら自身二度目のイタリアSuperLegaに挑戦している。

僕が石川を撮影したのは2012年1月の全日本高校バレー（通称春高バレー）。愛知県の強豪校・星城高校時代が始まりだ。とはいっても、石川は当時1年生。前年優勝校や大型選手を揃える他校が注目を集めるなか、星城高校が3回戦で敗退してしまったので撮影したカットも少ない。この世代の大会が始まると、初日に選手の身長、最高到達点をもとに活躍しそうな選手を見つけるのだが、正直、当時の石川は目に留まるほどずば抜けた数字を持っているわけでもなかったため、完全にノーマークだった。ところがこの高校生活を通して石川は開花する。身長、最高到達点を伸ばし、勝負メンタルも鍛え上げられた石川がキャプテンを任された3年時には2年連続の3冠を達成。このとき、うっすらと涙を浮かべていた石川の姿はいまでも印象に残っている。

2014年のアジア大会で全日本デビューを果たした後、日の丸を背負った石川の成長を感じたのは2015年9月のワールドカップバレーだった。初戦のエジプト戦からスタートで起用され、フルセットで勝利したこの試合で大活躍した石川はMIP賞を取った。この日までガラガラだった会場が、石川の活躍を一目見ようと、翌日のアメリカ戦からはチケットが完売。会場が満員になった男子バレーを久しぶりに目にすることになった。

逸材と称されるには理由がある。特筆すべきはその攻撃センスだ。191㎝という身長は、バレーボール選手の中では決して大きいほうではない。しかし、最高到達点は345㎝と全日本代表の平均342・6㎝よりも上回っており、打点の高さ。滞空時間の長さ。空中でのバランスも良く、コースを打ち分けたスパイク決定率は圧倒的だ。2020年東京五輪ではチームを牽引する存在へ成長していてもらいたい。そうなれば、メダル獲得も夢物語ではなくなるはずだ。

# 取材 珍道中記

AJPS会員が
世界に残す足跡
さまざまな出来事が
ありました

## 取材訪問国　計105か所

■アイルランド
■アゼルバイジャン
■アメリカ
■ UAE
■アルゼンチン
■アンドラ
■イエメン
■イギリス
■イタリア
■イラン
■イラク
■インドネシア
■ウズベキスタン
■ウクライナ
■ウルグアイ
■エクアドル
■エジプト
■エチオピア
■オーストラリア
■オーストリア
■オマーン
■オランダ
■カザフスタン
■カタール
■カナダ
■韓国
■カンボジア
■ガーナ
■北朝鮮
■キプロス
■キューバ
■ギリシャ
■クウェート
■クロアチア
■ケニア
■コートジボワール
■サウジアラビア
■サンマリノ
■シンガポール
■ジンバブエ
■シリア
■スイス
■スウェーデン
■スペイン
■スロバキア
■スロベニア
■セルビア
■タイ
■台湾
■タジキスタン
■タンザニア
■チェコ
■中国
■チュニジア
■チリ
■デンマーク
■トルコ
■トリニダード・トバゴ
■ドイツ
■ナイジェリア
■日本
■ニュージーランド
■ニカラグア
■ノルウェー
■バチカン市国
■パプアニューギニア
■バーレーン
■ハンガリー
■パラグアイ
■フィリピン
■フィンランド
■ブラジル
■フランス
■ブルガリア
■ブルキナファソ
■ベトナム
■ベラルーシ
■ペルー
■ポーランド
■ベルギー
■ボツワナ
■ボスニアヘルツェゴビナ
■ポリビア
■香港
■ポルトガル
■マケドニア
■マレーシア
■マカオ
■マリ
■南アフリカ
■メキシコ
■モナコ
■モロッコ
■ユーゴスラビア
■ヨルダン
■ラオス
■ラトビア
■リトアニア
■リヒテンシュタイン
■ルクセンブルク
■ルワンダ
■ルーマニア
■レバノン
■レソト
■ロシア

南アフリカのクルーガー国立公園で群れから外れた暴れん坊ゾウの襲撃を食らう（岸本勉）

カメラを向けただけでこの笑顔をくれるウズベキスタンの美女（六川則夫）

自転車レースに興味深々なルワンダの人々（田中苑子）

ベロオリゾンチに現れたウルグアイサポーター（杉山茂樹）

とにかく人懐っこいパプアニューギニアの小学生たち（早草紀子）


「キレイな写真」の、その先へ

1950 年の創業以来、プロフェッショナル写真の制作ひとすじ。
熟達した技術と感性とで、日本の名だたるプロ写真家の名作を手がけてきました。
アマチュア・ハイアマチュアの方に「**コンテストに勝つ写真**」をご提供いたします。

写真弘社

写 真 弘 社 / 〒101-0031 東京都千代田区東神田3-2-3　TEL.03-5822-2111（代表）
銀　座　店 / 〒104-0061 東京都中央区銀座2-9-14銀座ビル2F　TEL.03-3561-6109
ウェブサイト / www.shashinkosha.co.jp




## ところ変われば…

大住良之

1977年に初めて南米（アルゼンチンとブラジル）に取材に行ったときの印象が強烈です。当時、アルゼンチンではジャケットとネクタイ着用が取材現場でも当然といった環境でした。けれど、ブラジルのリオデジャネイロ、マラカナンスタジアムでブラジル×西ドイツ（13万5千人もはいりました）の取材をした際、ブラジル人のジャーナリストたちが僕を見て笑うのです。「なぜ笑っているのか」と聞くと、「病院に行くのか」と聞かれました。ブラジルでは、ネクタイを締めるのは病院に行くときだけで、サッカー場にネクタイをしてくるバカはいないと言われました。

試合後は記者たちがブラジルの更衣室に入っていって取材を行っていました。思わず終了後に写真をパシャリ。取材で子ども扱い（16歳と言われた！）をされたことで、翌年のワールドカップは馬鹿にされないよう、ひげを生やしていきました。今やトレードマークとなった僕のひげはそれ以来です。

## 苦くて甘いトラウマ

飯塚健司

2004年に重慶で開催されたアジア杯時に「日本メディア×中国メディア」の親善試合があった。現地で300円ぐらいのスパイクを購入し、気合いを入れて右サイドバックで先発出場。前半途中のFKのチャンス。ゴール前に攻撃参加したら、自分にボールがきた。「これは！」と思ってヘディングしようとしたら、自分より身長が20cmくらい高く、体重は30kgくらい重そうな屈強な中国人DFに吹き飛ばされて頭からピッチに落ちた。後方からのチャージでかけていたメガネも吹っ飛んだ。心配したまわりから一時退場を促されて、結局休んでいるまま試合終了。各遠征先でメディアマッチが行なわれているが、後にも先にも参加したのはこの1試合のみだ。ケガなどして取材続行が不可になるのは嫌だし、なによりこのときのハードタックルがトラウマとなっている。しかし、翌日の現地新聞にはなぜか自分のいい感じのドリブルシーンが掲載されていた。苦い思い出だけど、ちょっとうれしさも残っている。

©Naoyoshi Sueishi

**一般社団法人　日本スポーツプレス協会賛助会員**（2017.3 現在、アイウエオ順）

株式会社朝日新聞出版 アサヒカメラ編集部、有限会社 イマジン・アートプランニング
オリンパス株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、
株式会社学研プラス CAPA 編集部、銀一株式会社、サンディスク株式会社、
株式会社ジェイ ワールド トラベル、株式会社写真弘社、学校法人専門学校 東京ビジュアルアーツ、
株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン、
学校法人タイケン学園 日本ウェルネススポーツ大学、株式会社日本写真企画
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
株式会社フレームマン、株式会社堀内カラー、マンフロット株式会社
山本光学株式会社、ワイズ・スポーツ株式会社 スポーツナビ編集部


スポーツの鼓動
HEARTBEAT OF SPORTS

編集長
**早草紀子**

編集部
**飯塚健司　渡辺達也　杉山茂樹**
**三木麻里**

フォトディレクション＆編集
**スエイシナオヨシ**

アートディレクション＆デザイン
**本多伸二**

広告
**水谷たかひと　岸本勉　竹内里摩子**

校正
**ペーパーハウス**

編集・発行人
**水谷章人**

編集・発行所
**一般社団法人**
**日本スポーツプレス協会（AJPS）**
〒 112-0013
東京都文京区音羽 1-21-10 関根ビル 603
TEL:03-3946-9033 ／ FAX:03-5981-9606
http://www.ajps.jp/


※各原稿は 2017 年 3 月 15 日現在の内容です。本誌掲載記事・写真を無断で転載することは固くお断り申し上げます。


AJPS マガジン vol.34　March 31 2017
**定価 500 円（税込）**


# 編集後記

文／早草紀子

偉大なプレイヤーは書き手も撮り手も魅了する。今号で取り上げた10人のみならずそれぞれの競技に魅力的なプレイヤーは存在する。そうした存在があるからこそ、私たちはどんなに遠いところでも足を運ぶのだ。スポーツ取材は現場で感じることがすべて。スタジアムで、競技場で、アリーナで、サーキットで……プレイヤーの何気ない一言やちょっとした仕草からさまざまなことを読み解くことができる。その瞬間、瞬間をこうして形に残すことができるのはなんと幸せなことか。

圧倒的な熱量や静かな闘志――スポーツの鼓動をどれだけ感じ取ることができるか。どれだけ伝えることができるか。おそらく私たちジャーナリストにとって精髄ともいえるのではないだろうか。制作期間は改めて原点をみつめなおす時間になった。この一冊からさまざまな鼓動を感じ取ってもらえることを願う。最後に。次回からいよいよ1号がスタートする。新たな発信の形に挑戦したこの0号制作にあたり、ご協力いただいたすべての方にありったけの感謝をこめて。

©Naoyoshi Sueishi


HCLネットサービス　HORIUCHI COLOR

感動を再現する。

デジタル銀塩プリントを極める
**ネットdeザ・プリント**
銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

銀塩フォトブックを極める
**ネットdeザ・フォトアルバム**
多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高品質銀塩写真、見開きはフルフラット仕様の製本で高級感溢れる銀塩フォトブックができます。

インクジェット・プリントを極める
**ファインアート・プリントサービス**
作品イメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数の7種類のアーティスト用紙でご提供します。それぞれの個性と美しさをお楽しみください。

各サービスの詳細やご注文はホームページから…www.horiuchi-color.co.jp　TEL.03-3295-2191

# D5

Nikon 100th anniversary

未知なる光を、捕捉せよ。

**I AM** THE D5

未踏の領域を切り拓く、動体捕捉力。ベールを脱いだ、高感度性能。
153点AFシステム、進化した連続撮影性能、最高常用感度ISO 102400、4K動画機能…
すべての刷新は、かつてない光を捉える為に。世界はついに、新たな世界を手に入れた。

価格：オープンプライス

1億本 NIKKOR

ニコンカスタマーサポートセンター 携帯OK 0570-02-8000

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30～18:00（年末年始、夏期休業等を除く毎日）●ナビダイヤルがご利用いただけない場合は、(03)6702-0577におかけください。●ファクシミリでのご相談は、(03)5977-7499へご送信ください。

www.nikon-image.com

株式会社ニコン・株式会社ニコン イメージング ジャパン

Nikon

At the heart of the image